

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：14501

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00733

研究課題名 「情報を精査・解釈する力」の育成を目指した幼小接続期の学習プログラムの開発

研究代表者

高橋 由衣 (TAKAHASHI, Yui)

神戸大学・附属学校部・小学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 400,000円

研究成果の概要：小学校低学年を対象として、挿絵に着目した文学的文章の学習プログラムを開発することを通して、「情報を精査・解釈する力」を育成することを目的として研究に取り組んだ。本年度は、基礎研究として挿絵が児童の読みに与える影響について明らかにするために、133名の低学年児童を対象に調査問題を実施した。この結果、2点のことについて示唆を得ることができた。1点目は、指導には3つの様相があり、物語を「文章のみ」「挿絵のみ」「挿絵と文章を関連付けて」読む児童がいることが明らかになった。2点目は、挿絵があることによって、物語について具体的に豊かにイメージできる児童が比較的多いことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校入学前は絵本を読むことが多い子供だが、小学校入学後の国語科授業では連続型テキストである文章を対象として情報を読み取ることが急に求められる傾向にある。この幼小間の段差が原因となり、読み取りに困難を示したり文学的文章に苦手意識をもったりする子供の存在が明らかになっており、改善が急務とされている。そのため、本研究により、幼小接続期である小学校低学年の読みの様相を明らかにすることができ、今後より具体的な指導方法を見出すための資料が集まったといえる。一方で、本研究では今後調査対象者数、回答数等より精度の高い調査を実施する必要がある。その上で、具体的な学習プログラムの開発に取り組んでいく。

研究分野：教科教育学

キーワード：幼小接続 非連続型テキスト 挿絵 小学校国語科 物語教材 読むこと 見ること

1. 研究の目的

本研究は、小学校低学年を対象として、挿絵に着目した文学的文章の学習プログラムを開発することを通して、「情報を精査・解釈する力」を育成することを目的とする。

新学習指導要領国語編(文科省,2017)では、「情報を精査・解釈する力」が重要視されている。国語科における「情報を精査・解釈する力」とは、連続型テキスト(文学的文章や説明的文章等)や非連続型テキスト(図表,グラフ等)から必要な情報を取り出し、情報同士を関連付けることで読みを深める資質・能力のことである。PISA2015においても「情報を精査・解釈する力」に関する問題は有意に低い結果を示しており、その育成が求められている。その中でも特に非連続型テキストの扱いが課題となっているが、現在はまだ説明的文章における図表やグラフの扱いに研究対象が限定されている段階にある。学術的には、文学的文章における非連続テキストである「挿絵」を対象とし、挿絵から読み取った情報と文章から読み取った情報を関連づけることで読みを深めることの重要性が指摘(目黒,2010)されているものの、具体的な学習プログラムの開発は十分行われていない状況にある。そこで本研究において、挿絵に着目した文学的文章教材の学習プログラムの開発を行う。

尚、挿絵に着目した文学的文章教材の学習プログラムを開発することは、入学以前の読みの経験を生かして子供の読みの力を系統的に育成することにつながる可能性が高く、幼小接続期の読みに関する学習の在り方を改善する点でも意義があると考え、小学校低学年に焦点をあてる。

2. 研究成果

(1) 児童の実態調査とその結果

2020年度は、基礎研究として小学校低学年児童の実態調査を行った。本調査は、挿絵が児童の読みに与える影響について明らかにすることを目的として行ったものである。調査内容は次の通りである。

【調査内容】

- ①調査対象 K 小学校 2～3 年生児童 133 名
- ②調査題材 「はなのみち(光村図書1年上)」
- ③調査の具体

挿絵なし、文章のみの「調査問題①」と挿絵と文章ありの「調査問題②」を用意した。①②共に以下の5つの設問に答えるようにした。

<設問>

- 1: くまさんについて分かることを書きましょう。
- 2: いつの季節のお話ですか。
理由もふくめてかんがえましょう。
- 3: くまさんは、どこで袋を見つけましたか。
- 4: 「しまった。あながあいていた。」と言った時のくまさんの気持ちを書きましょう。
- 5: 「ながいながいはなの一本みちができたのはなぜですか。」

【調査結果】

設問1～5のうち、3・5に関しては、挿絵を使用した調査問題②の方が①に比べて正答率が有意に高いことが明らかであった。3・5は、いずれも文章には何も書かれていないため、推測することも難しい問題である。しかし、児童は挿絵を活用することによって、出来事や様子の具体的なイメージを膨らませることができていた。

【児童の感想】

A 児は2種類の調査後、次のように感想を述べていた。

調査問題①の後:「①くまさんについては、何も書かれていなかったから、答えるのが難しかったです。」

調査問題②の後:「絵を見ると、くまさんについても季節についても絵や色で分かりやすかったです。」

B 児は2種類の調査後、次のように感想を述べていた。

調査問題①の後:「『どこで見つけたか』『季節』は、文章に書いていないので、難しかったです。」

調査問題②の後:「絵を見ると、家の中で見つけているから、『家の中』だと分かりました。」

(2) 考察

本調査を通して、次の2点について示唆を得ることができた。1点目は、児童の様相としてA「文章から根拠となる言葉を見つけ、自らの生活経験と関連づけながら読むことができる児童」B「文章と挿絵を関連づけながら読むことができる児童」C「挿絵のみで読む児童」の3つの様相があることが分かった。2点目は、挿絵があることによって、物語について具体的にイメージできる児童が多いことが分かった。

【調査問題①】

【調査問題②】

【調査問題②】

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高橋 由衣	4. 巻 第8号
2. 論文標題 国語科における「情報を精査・解釈する力」の育成 ―「お手紙」の実践を手がかりにして―	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大谷大学国語教育研究	6. 最初と最後の頁 2頁～12頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------